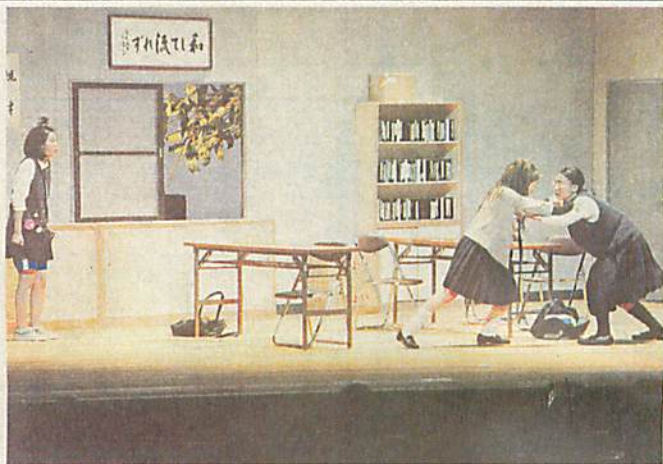


全国高校演劇大会始まる

岡山勢熱い舞台



創作劇を熱演する操山高の生徒

第4回春季全国高等学校演劇研究大会（全国高等学校演劇協議会など主催、山陽新聞社後援）が14日から3日間の日程で、倉敷市中央の市芸文館で始まった。

初日は中国地方代表の操山高（岡山市中区浜）と開催県代表の津山東高（津山市林田）の岡山勢が登場、熱いステージを繰り広げた。

同協議会加盟2140校の中から予選を勝

ち抜いた全国9地域の代表に開催県代表を加えた10校が出場。初日は、4校が舞台に立った。

操山高は、生徒が脚本を手がけた創作劇「時には星くずのように」、津山東高は津山市出身の作家・重松清原作の「まゆみのマーチ」を脚色した作品を上演。いずれも家族を題材にしたシリアスな内容で、生き生きとした生徒の演技に、観客から大きな拍手が送られた。

高校時代に演劇部だった倉敷市片島町、パート安藤純子さん（62）は「昔よりレベルが高く、感動した」と話していた。

15、16日とも午後2時開演で各3校が上演する。入場無料。

（土井一義）

白壁の街